

交差保育法の実践（その三）



宮沢キヨ子・大塚朝子
佐藤佳代子・相楽幸子
指導 大戸美也子

二 交換保育

2 物の交換を通してきく組と富田幼稚園の子どもたちが知りあう（ひづき）

十月二十七日（木曜日）

ザベリオでは、昨日富田のレンゲ組から預かってきた手紙と

地図、スマレ組から預かってきた松ぼっくりを媒介に富田の新しい友だちを具体的に紹介する日である。地図は、子どもたちの目につく場所（掲示板）にはっておく。朝、子どもたちは外のあそびからへやに帰ってくると、さつそく地図に目をとめて、「先生、これなーに」と質問しはじめる。

「さあ、なんでしょうね」

四、五人の子どもが「何だろう」といって地図のまわりに集

まつてくる。女兒の一人が

「あっ、わかった。ちず、だよ」

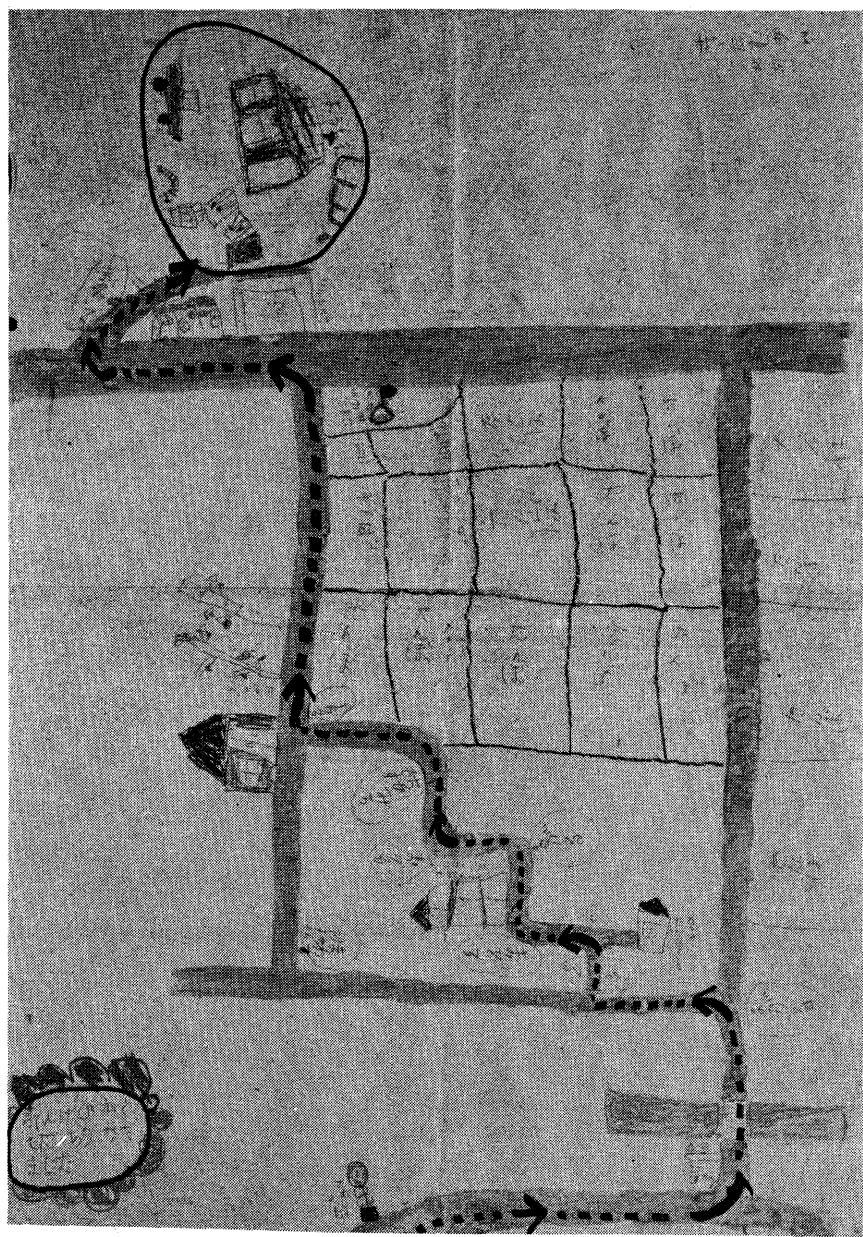
この発言に刺激され、今まで地図に気づかなかつた他の子どもたちも地図のまわりにやってくる。

「どこの地図かしら？」

「どみた幼稚園のだ！」

「そうね、こんな下のほうに“おおしま”とかいてある停留所がありますね」

子どもたちは、地図に近づいて指でたどりながら「また、曲り角」とうれしそうに歓声をあげ、くり返しくり返し曲線の道をたどる。曲り角の所や目印になる建物の所で「ここに橋がありますよ。他になにかないかしら？」と先生が問い合わせると、「こここの曲り角には、竹やぶがある」と細かな反応がかえつて



くる。園庭の遊具も細かく描かれているので、富田には、ジャングルジム、タイコ橋のあることにも気づく。

「おともだちも、先生も富田幼稚園へ行つたことがないけど、どうしたらいけるかしらね？」

「バスで行けばいいよ」

「そうね、でもバスから降りたらどうする？」

「これをもつていけばいいよ」と地図を指さす。

「あつそうね、そうしたら地図もつていけば行けるわね。じゃあ、もつとくわしく見ておくといいわね」

先生と子どもの間でこんなやりとりがあつたあと、先生から地図の他に手紙も届いていることが知られる。窓ぎわの日なたに丸くなつてすわり、レンゲ組の先生や友だちの手紙を見たり聞いたりする。

それでは、みんなのしみにまつてます。

さようなら

10がつ26にち　かようび

とみたようちえん　レンゲぐみ

さがら　さちこ

「さべりおようちえんのおともだちこんにちわ。
わたしのなまえは、さがらさちこです。とみたようちえん
のレンゲぐみのせんせいです。きのう　かよこせんせいやタ

ンポポぐみのおともだちから、きくぐみさんのかいたてがみ
をみせてもらいました。そしたら、29にちにあそびにくると
かいてあつたので、きょうレンゲぐみさんにもてがみをみせ
て、しらせてあげました。

みんなおおよろこびです。どうしてもへんじをかきたくなつて、じのかけないおともだちは、えをかいたり、せんせいがかいてあげたりしました。どうぞよんでくださいね。

それから、ざべりおのおともだちがとみたようちえんにくるのははじめてなので、みちにまよわないようにみんなで「ちず」をかきました。ちずもてがみといっしょにみてください。きょうは、あめがふつてそこにでてあそべません。ざべりおのおともだちも、きっとおへやであそんでいるのでしょうかね。あめがやめば、みんなでまつぱつくりやかれはをひろつて、おくりたいのですが、なかなかおでんきにななりません。いまは、あめがふつてもいいけれど、29にちにはせつたいいおでんきになつてもらいたいですね。

なうですか。

れんげぐみ むらこし あきこ

碁盤の中にきちんと文字のかかれたこの手紙には、切紙の絵が二枚付け加えられている。「きくぐみのおともだちはどんなふだで、どんないろですか」という所で、子どもたちは自分の名札を指さして「こんな形だけど」と反応する。どんぐりの実を手紙にとめてあるもの、切紙で作った絵を見て、「わあ、きれい、三まいもつづいている」等と話しながら手紙を何度も友だちと交換しあって読む。その後、子どもたちが手紙を自由によめるように、地図の下にはる。

「ここにはっておきますからね。いつでもよんديいですよ」

この日、きく組の先生から、富田のレンゲ組、スミレ組へお礼の手紙が出される。

同じ日、富田でもザベリオから預かってきた手紙がタンポボ組からレンゲ、スミレ組へ順に披露される。

タンポボ組の佐藤先生が大きな紙袋をもつて登園すると、女

児が近づき「先生、荷物もつてあげる」という。そして、すぐにその荷物がザベリオからの手紙であることに気づく。先生はへやにはいるとすぐ、へやのすみに広げられているカーペットの中央部に封筒をおき、「ザベリオのおともだちと先生から手紙

がつきました。みんなで仲よくとつてみてください」という。子どもたちは、それぞれ封筒から手紙をとり出し声を出してよみはじめる。自分たちが拾ってあげたどんぐりが人形やこけしなってはいつているのをみて歎声をあげる。一通りよみ終えると、手紙類を机の上におき、両どなりのレンゲ、スミレ組へ先生が「ザベリオから手紙がきましたよ、どうぞみにきてください」といつて歩く。しかし他のクラスの子どもたちの関心はうすいので、タンポボからレンゲ組へ手紙を配達することになる。

「ハイッ！ ゆうびんですよ」タンポボ組の男児が大きな封筒をかかえて、レンゲ組にとびこむようになつてくる。

「あっ！ ザベリオからだ」

「先生、もうきたの？ 早いなあ」

この日レンゲ組では、先生が来る前から子どもたち三人が黒板を三等分して、手紙かきをしていた。

「ザベリオのおともだちおげんきですか。わたしもげんきです。29にちにきてください。……」

タンポボ組から届けられた手紙を昨日と同じように、先生がよんであげそれから子どもたちに渡される。「タンポボぐみさん」というよびかけが多いのでやや不満そうであるが、「とみたようちえん」とか「レンゲさん」という言葉には敏感に反応

しニコニコする。

「えきげんよう もうあさですね。きんようびいきます。

十月二十八日（木曜日）

おみやげつくり

29にちにいきます。もうすぐいきます。とみたようちえんえいきます。もうすぐだからはやくいきます。わかりましたか。

ゆきのり

この手紙には子どもたちが大よろこびで、「もう一度よん

！」と五回もアンコールが出る。よんでいるうちにも歓声があ

がり、おかしそうに子どもたちは笑いこける。レンゲ組でも、

手紙と一緒に届けられた、こちらで送ったどんぐりの作品や紙人形をあきずに、うばい合うようにながめる。

「うわあ、かわいい。どんぐりがそんなになっちゃったの」

「先生、まつぼっくりやるとよかつたね」と昨日松ぼっくりを送ろうといった子がいう。

三 交差保育

1 交差保育へのウォーミング・アップ

いよいよ保育の交換を明日に控えた日、ザベリオではおみやげ作りが、富田では定例の誕生会の席で、明日いよいよザベリオの友だちの来ることが、司会の役をとっていた先生からあらためて全員に伝えられる。双方共に交換保育への気持が盛りあがってくる。

先生は、朝、カード大の画用紙をピンキングで切りながら子どもたちの登園してくるようすをみている。子どもはドアを開けるなり「先生、なにしてるの?」ときく。

「さあ、なんでしょう?」

「あっ、わかった、カードでしよう」

「ちがうよ、わたしわかった!」

「おしえてよ、おしえてよ」女兒、廊下に走っていき仲間に耳うちする。「わかった、わかった。クリスマスカードでしょう?」

「そうね、それもできるわね、作ってみたい?」

「うん」作りたい子どもに紙を与える、折紙、絵の具、鉛筆の用意もする。先生は紙を半分に折って「半分にする」と、ほら本みたいになるでしょう等と話し合いながら子どもと一緒に製作をはじめる。子どもたちは、小さなカードに鉛筆で線を描き、その上に絵の具をぬったり、折り紙で切り紙を作りそれをはつてきれいなカードを作っていく。ことばを書き入れてもよいといわれ、手紙をかく子もいる。

カードは子どもに手ごろな大きさであつたため、あつという間に出来あがりもつと作りたいという。次々登園してくる子どもがつてくる。

もたちもカード作りにすぐ加わつてくる。

「先生いいこと考えたんだけど、きいてくれる？ みんなのカードを見ていたら、こんなきれいなもの、おともだちにあげたいなあつて思つたの。どうかしら？」

「うん、いいよ」みな賛成する。

「とみたのおともだちは何人いるのかな。たしか66人と思つたけど、まにあうかしら？」

「ぼくもつとやりたい！」

「そうね、皆で一生懸命作つてみましようね」カードの中に

は「どんぐりありがとう」「おともだちになれてうれしいです」

「うれしいです」ということばが書きそえられる。

カードは出来あがると、順に絵の具をかわかすため窓ぎわに並べていく。

「もうこんなにカードができましたよ。よかつたわね」

カード作りを終え、それぞれ新しい活動に移つていくが、時時先生のそばにかけよつては、

「せんせい、あした29にちだよね」

「あしたとみたようちえんへ行くんだよね」

「そうですよ、本当に行きますよ」

「うわあーい」と声をはりあげる。子どもたちひとりひとりの心の中に明日への期待が大きく広がつてゐるようだ。

昼食後みんなで地図の前に集まり、大島から幼稚園までの道

順を確かめたり、バスの中で注意すること、富田についてからの予定などを話し合う。富田の友だちが「手をつなぎましょう」といつたらみんなどうしたらいいかも話し合う。さらに、明日もつていくものをみんなでひとつあげてみ、その後全員でハーモニカを吹く。明日は富田の友だちにハーモニカを吹いてあげる予定なので、どの子も力いっぱいふく。

「ぼくきょうう家に帰つたら、お父さんと地図つくるんだ。富田へ行く地図！」

帰りには、父兄にあてて交換保育をする旨の手紙と持ちものについて記した手紙が子どもたちに渡される。

誕生会のとき全員で交換保育の話をきく

富田幼稚園では、毎月月末にその月の誕生の子どもが母親とともに園全体でお祝いを受ける会がもたれる。誕生の子とその母親が皆の前にて、「ハッピー、バースデー、ツーュー」をひとりずつ歌つてもらいながら、輪つなぎの首かざりと色紙のプレゼントをもらう。母親は子どもたちにわかるように自分の子どもの家の生活や望むことを話し、クラスごとに新しく覚えた歌をうたつたり、先生と母親が協力してアトラクションをし、おやつを食べる楽しい会である。この会のほぼ終りごろ司会の

役をとつていたスミレ組の先生から、明日ザベリオ幼稚園の友だちが遊びに来ることが全体に向けて伝えられる。

「雨が降らないといですね。レンゲ組さんは地図をかいて

あげたんですって、スミレ組さんは松ぼっくり、それからタンボボさんはドングリをあげたんですよ」

昼食後、マイム・マイムのレコードがなり、園庭でおどりがはじまる。最近子どもたちの間で流行し、必ず一日一回は踊るおどりである。

「先生、ザベリオの人たちマイム・マイムおどれる?」

「大塚先生にあつたときには、いま富田の友だちは、運動会でお母さんたちが踊つたマイム・マイムをよろこんでしている。すよつて、おしえてあげたら、ザベリオの友だちも好きだから一緒に踊れるわねつていつてたわよ」明日、ザベリオの友だちと一緒に踊るかもしれないというのでみんなが踊りに参加する。これで、園全体がひとつになつて待つ態勢がととのつたようだ。

降園前のタンポボ組では

「先生、へやの紙くずひろうね。ザベリオの人たち来るのに、またないと笑われちゃうから」

「私、ロッカーの中のいっぱいあるから、少しもつていく」「あした雨ふつたら、いつ? いつ?」

「どんな顔しているのかな」

「せいはぼくより大きいかな」

同じくレンゲ組では

「あした、ザベリオの友だちのくる日ね」

「わかつて、そんなの」

「来ない方がいいなあ」今まで一番敏感に反応し、一番心待ちにしているように思われた子が逆のことをいう。

「お天気がよくなるように、みんなでお願いしようね」

(二ヵ月前に作つたてるてる坊主を指さして)
「てるてるてる坊主があるから、きっと大丈夫だよ」

(つづく)